

2022年 春季年会

# 年会プログラム

於 広島大学(オンライン開催)

2022年3月2日(水)～3月5日(土)

日本天文学会

# 日本天文学会 2022年 春季年会プログラム

期 日 2022年3月2日(水)～3月5日(土)

場 所 オンライン開催

電 話 090-4387-6893(学会事務局) <使用期間 2022年3月2日(水)～3月5日(土)>

E-Mail nenkai-committee@asj.or.jp(年会実行委員会)

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月1日 (火)							記者会見						
3月2日 (水)	A		W. コンパクト天体	昼 休 み 11:40-13:00		W. コンパクト天体	ポスター	理事会					
	B	V1. 観測機器(電波)	V1. 観測機器(電波)										
	C	R. 銀河	R. 銀河										
	D	M. 太陽	M. 太陽										
	E	Q. 星間現象	Q. 星間現象										
	F	P2. 原始惑星系円盤	P2. 原始惑星系円盤										
	G	X. 銀河形成・進化	X. 銀河形成・進化										
	H	T. 銀河団/U.宇宙論	U. 宇宙論										
3月3日 (木)	A		W. コンパクト天体	昼 休 み 11:40-13:00 (代議員総会)		W. コンパクト天体	ポスター	天文教育 フォーラム					
	B	V1. 観測機器(電波)	V1. 観測機器(電波)										
	C	P1. 星形成	P1. 星形成										
	D	M. 太陽	M. 太陽										
	E	Q. 星間現象	Q. 星間現象										
	F	P2. 原始惑星系円盤	V2. 観測機器(光赤・重)										
	G	X. 銀河形成・進化	X. 銀河形成・進化										
	H	Y. 教育・広報・他	Y. 教育・広報・他										
3月4日 (金)	A		S. 活動銀河核	昼 休 み 11:40-13:00		S. 活動銀河核	ポスター	会員全体集会					
	B	V3. 観測機器(X線・γ線)	V3. 観測機器(X線・γ線)										
	C	P1. 星形成	P1. 星形成										
	D												
	E	P3. 惑星系	P3. 惑星系										
	F	V2. 観測機器(光赤・重)	V2. 観測機器(光赤・重)										
	G	X. 銀河形成・進化											
	H	N. 恒星・恒星進化	N. 恒星・恒星進化										
3月5日 (土)	A		S. 活動銀河核	昼 休 み 11:40-13:00		受賞記念講演 (第一部)	受賞記念 講演 (第二部)						
	B	V3. 観測機器(X線・γ線)											
	C	P1. 星形成											
	D												
	E	P3. 惑星系											
	F												
	G												
	H	N. 恒星・恒星進化											
3月6日 (日)							公開講演会						
3月19日 (土)		ジュニアセッション											
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

※セッション(午前) 09:30～11:40

※セッション(午後) 13:00～15:10

※ポスターセッション 15:30～16:30

## ◎講演数

講演数：合計 534

(口頭講演 (a)：461、ポスター講演 (b)：59、ポスター講演 (c)：14)

## ◎参加登録について (参加希望者は、必ず事前に参加登録をしてください)

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

## ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	無 料	無 料
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき) (但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円)	
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)	2,000円 (消費税込み)

○参加登録受付場所：学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>)

○参加登録受付期間：2022年1月中旬～2月中旬 (事前登録が必要。但し講演者は不要です)

※参加費については今回は無料です。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

## ◎講演に関する注意

- 口頭発表は8会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

- PC及び通信環境はご自身でご用意をお願いいたします。発表に要する通信料等は、発表者の自己負担です。Zoomを利用しますので、学会ホームページをご覧になり、事前にダウンロードや動作確認をしてください。また、発表者自身のインターネット接続、映像・音声等のトラブルの対応はできません。基本的にはご自身での解決をお願いいたします。

- 講演者は、セッション開始時刻の20分前から10分前までにご入室ください。

※開始20分前から10分前まで、希望者は画面共有のテストができます。

※開始10分前からは、担当者が講演方法の説明をいたします。

視聴者は、セッション開始時刻の5分前からご入室ください。

また入室の際には、下記の命名規則に従って「参加者名」を設定してください。

参加種別	「参加者名」の命名規則	例
講演者	「*(アスタリスク)」+「講演番号」+「氏名」+「(所属)」	*Z141a天文花子(天文大学)
視聴者	「氏名」+「(所属)」	天文花子(天文大学)

- ポスターセッション(添字 b、c)は Slack を利用します。コアタイムの間、極力リアルタイムで返信をしてください。(添字 a の講演者にも Slack チャンネルをご用意いたします)
- 講演の実施方法の詳細は、学会ホームページに掲載いたします。事前に説明をよく読んで、Zoom の操作手順に関する理解を深めておいていただくようお願いいたします。
- 受信画像や発表資料の保存 (キャプチャを含む)、録音や配布は固くお断りします。

## ◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月1日(火)	13:00～15:00	オンライン	記者会見
3月3日(木)	16:30～18:00	オンライン	天文教育フォーラム
3月4日(金)	16:30～18:30	オンライン	会員全体集会
3月5日(土)	13:30～16:30	オンライン	受賞記念講演 ・第一部(林忠四郎賞/研究奨励賞) ・第二部(欧文研究報告論文賞)
3月6日(日)	13:30～16:00	オンライン	公開講演会

## ◎会合一覧表

※今回、通常の会合は募集しておりません。

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否*
3月2日(水)	16:30～17:30	オンライン	理事会	D
3月3日(木)	11:40～13:00	オンライン	代議員総会	D

※年会参加者の参加可否の説明(オープン化の程度)

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

## ◎天文教育フォーラム：「天文教育普及における評価研究手法」

日 時：2022年3月3日(木) 16:30～18:00

場 所：オンライン会場(学会ホームページにて事前登録が必要)

概 要： 天文学に関わる研究者や教職員、科学コミュニケーターにとって教育普及の効果を測定・評価し、報告すべき場面は多く存在する。しかし、教育普及の実践をどのように評価するかは簡単ではない。学習者の意見を集め、統計を駆使して教育評価を測るアンケート調査は比較的簡便であり、最もよく採られる方略の一つであろう。しかし、単純なアンケート調査などだけに頼ってはいは、肝心の学習者の理解や学習過程の内面に迫ることは難しい場合もある。多くの意見を集めた計量的評価・研究と並んで、少ないサンプルを深く掘り下げる質的な評価・研究手法が役に立つ場面もあるだろう。

今回の天文教育フォーラムでは、教育普及現場での教育効果を評価し研究する手法を考え、特に科学者にとって馴染みの薄い質的研究についても、専門家からのお話を伺いつつその可能性を検討し、議論していきたい。

話題提供：(1) 縣秀彦氏(国立天文台) 「天文教育研究の現状」  
(2) 香月裕介氏(神戸学院大学) 「教育研究における質的研究の活用」

実行委員：鴈野重之(九州産業大学)、玉澤春史(京都大学/京都市立芸術大学)、富田晃彦(和歌山大学)

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

## ◎日本天文学会公開講演会

日 時：2022年3月6日(日) 13:30～16:00 (開場 13:00)

形 式：対面とオンラインを併用したハイブリッド形式

場 所：【対面】広島大学 東広島キャンパス内 理学部E棟 002室

【オンライン】Zoom/webinar (学会ホームページにて事前登録が必要)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面開催の予定を変更させて頂く場合があります。

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「広島で生まれた天文学」

広島では、各大学に天文・宇宙関連の研究者が在籍し、研究・教育に勤しむ傍らで、公共施設による天文関連の講座やアマチュア天文家有志による星空観望イベントなどが開かれ、一般の方々も天文学に触れる機会も多く、広島の天文学のルーツを探ると興味深い事実がいくつも見つかります。今回の公開講演会では、そのような広島の天文界の歴史を振り返りつつ、広島在住の研究者が取り組んでいる近年のブラックホール関連の最先端研究を判りやすく紹介して頂きます。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料

定 員：【対面】70名(先着順・自由参加)、【オンライン】1000名(先着順・事前登録制)

### <講演内容の紹介>

講演1：「広島と天文の関わり」

講師：加藤一孝 (比治山大学 講師/元広島市こども文化科学館長)

広島で育った私は、1970年代に天文サークルを作り、さらに大きなサークルへと合流し参加しました。その後のいろいろな経緯から、1980年に広島にオープンした科学館・プラネタリウムの運営にも加わりました。この間に育まれた多くの地元の方々との関係から、様々な親交が生まれ、多くの示唆をいただきました。また、県外の方からも、沢山の示唆をいただき、それが元となって、県内の天文関係の出来事を調査したこともあります。県内の郷土史を研究されている方から依頼を受け、調査する中で、天文界の先輩の知恵をお借りしたところ、とても興味深い結果を得たこともありました。これら、今まで私が経験した少しばかりの出来事ではありますが、その中から特に興味深い出来事を選んでお話しします。広島の天文界の出来事の一部でも知っていただければ幸いです。

講演2：「数値シミュレーションで迫る超巨大ブラックホールの姿」

講師：野村真理子 (呉工業高等専門学校 助教)

近年の観測天文学の発展により、ほとんどの銀河の中心には太陽の100万倍から10億倍もの質量をもつ超巨大ブラックホールが存在することがわかってきました。ブラックホールは物質を吸い込むだけでなく、その重力エネルギーを解放することで、強い光やガスを噴出し、ダイナミックな天体現象を引き起こします。本講演では、最新の数値シミュレーションに焦点を当て、超巨大ブラックホールが引き起こす天体現象や、超巨大ブラックホールの形成過程に迫る研究成果を解説します。

講演3：「人工衛星で探るブラックホール」

講師：水野恒史 (広島大学 准教授)

ブラックホールはその重さに比べ極めて小さいため、重力が強く、光すら抜け出せない天体です。しかし、ブラックホールができる時、またはブラックホールに物が落ちる時にその周りが「光る」ため、ブラックホールがどこでできたか・どこにあるのかを知ることができます。特にX線ガンマ線は、ブラックホールが誕生する瞬間や、ブラックホールのすぐ近くを調べるのに適した光です。X線ガンマ線は大気で吸収されるため、人工衛星を用いて、特殊な装置で観測します。最近では超小型衛星や偏光観測衛星などが登場し、盛り上がっています。この講演では、どのような装置を用い、人工衛星でどうやってブラックホールを観測し、何が分かるのかを解説します。

主 催：公益社団法人 日本天文学会

後 援：広島大学、広島大学先進理工系科学研究科、広島大学宇宙科学センター

※参加申込方法、及び最新のプログラムにつきましては学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>) をご覧ください。

## 口頭セッション 3月2日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	コンパクト 天体	観測機器 (電波)	銀河	太陽	星間現象	原始惑星系 円盤	銀河形成	銀河団/ 宇宙論
09:30	W01a	V101a	R01a	M01a	Q01a	P201a	X01a	T01a
09:42	W02a	V102a	R02a	M02a	Q02a	P202a	X02a	T02a
09:54	W03a	V103a	R03a	M03a	Q03a	P203a	X03a	T03a
10:06	W04a	V104a	R04a	M04a	Q04a	P204a	X04a	T04a
10:18	W05a	V105a	R05a	M05a	Q05a	P205a	X05a	T05a
10:30	W06a	V106a	R06a	M06a	Q06a	P206a	X06a	U01a
10:42	W07a	V107a	R07a	M07a	Q07a	P207a	X07a	U02a
10:54	W08a	V108a	R08a	M08a	Q08a	P208a	X08a	U03a
11:06	W09a	V109b V110b V111b	R09b R10b	M09a	Q09a	P209a	X09a	U04a
11:18	W10a	-	-	M10a	Q10b Q11b	P210a	X10a	U05b
11:30	W11b W12b W13b	-	-	M11a	-	P211b P212b P213b	X11a	-
11:40	昼休み							
開始時刻	コンパクト 天体	観測機器 (電波)	銀河	太陽	星間現象	原始惑星系 円盤	銀河形成	宇宙論
13:00	W15a	V114a	R11a	M12a	Q12a	P215a	X12a	U06a
13:12	W16a	V115a	R12a	M13a	Q13a	P216a	X13a	U07a
13:24	W17a	V116a	R13a	M14a	Q14a	P217a	X14a	U08a
13:36	W18a	V117a	R14a	M15a	Q15a	P218a	X15a	U09a
13:48	W19a	V118a	R15a	M16a	Q16a	P219a	X16a	U10a
14:00	W20a	V119a	R17a	M17a	Q17a	P220a	X17a	U11a
14:12	W21a	V120a	R18a	M18a	Q18a	P221a	X18a	U12a
14:24	W22a	V121a	R19b	M19a	Q19a	P222a	X19a	U13a
14:36	W23a	V122a	-	M20a	Q20a	P223a	X20b X21b X22b	U14a
14:48	W24a	V123a	-	M21a	Q21a	-	X23b X24b X25b	U15a
15:00	W25a	-	-	M22b M23b M24b	-	-	X26b X27b	-
15:12	W26b W27b W28b	-	-	M25b	-	-	-	-
15:30	ポスター							
16:30	理事会							

## 口頭セッション 3月3日(木)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場
開始時刻	コンパクト 天体	観測機器 (電波)	星形成	太 陽	星間現象	原始惑星系 円盤	銀河形成	教育・他
09:30	W29a	V124a	P101a	M28a	Q22a	P225a	X29a	Y01a
09:42	W30a	V125a	P102a	M29a	Q23a	P226a	X30a	Y02a
09:54	W31a	V126a	P103a	M30a	Q24a	P227a	X31a	Y03a
10:06	W32a	V127a	P104a	M31a	Q25a	P228a	X32a	Y04a
10:18	W33a	V128a	P105a	M32a	Q26a	P229a	X33a	Y05a
10:30	W34a	V129a	P106a	M33a	Q27a	P230a	X34a	Y06a
10:42	W35a	V130a	P107a	M34a	Q28a	P231a	X35a	Y07b Y08b
10:54	W36a	V131a	P108a	M35a	Q29a	P232a	X36a	-
11:06	W37a	V132a	P109a	M36a	Q30a	P233b P234b	X37a	-
11:18	W38a	V133a	P110b P111b P112b	M37a	Q31a	-	X38a	-
11:40	昼休み(代議員総会)							
開始時刻	コンパクト 天体	観測機器 (電波)	星形成	太 陽	星間現象	観測機器 (光赤・重)	銀河形成	教育・他
13:00	W39a	V134a	P113a	M38a	Q32a	V201a	X39a	Y09a
13:12	W40a	V135a	P114a	M39a	Q33a	V202a	X40a	Y10a
13:24	W41a	V136a	P115a	M40a	Q34a	V203a	X41a	Y11a
13:36	W42a	V137a	P116a	M41a	Q35a	V204a	X42a	Y12a
13:48	W43a	V138a	P117a	M42a	Q36a	V205a	X43a	Y13a
14:00	W44a	V139b	P118a	M43a	-	V206a	X44a	Y14a
14:12	W45a	-	P119a	M44a	-	V207a	X45a	Y15a
14:24	W46a	-	P120a	M45a	-	V208a	X46a	Y16a
14:36	-	-	P121a	M46a	-	V209a	X47a	Y17b Y18b
14:48	-	-	P122b P123b	M47a	-	V210a	X48a	-
15:00	-	-	-	M48a	-	V211b V212b V213b	X49a	-
15:12	-	-	-	-	-	-	X50a	-
15:30	ポスター							
16:30	天文教育フォーラム							

## 口頭セッション 3月4日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	活動銀河核	観測機器 (X線・γ線)	星形成		惑星系	観測機器 (光赤・重)	銀河形成	恒星進化
09:30	S01a	V301a	P125a	-	P301a	V214a	X51a	N01a
09:42	S02a	V302a	P126a	-	P302a	V215a	X52a	N02a
09:54	S03a	V303a	P127a	-	P303a	V216a	X53a	N03a
10:06	S04a	V304a	P128a	-	P304a	V217a	X54a	N04a
10:18	S05a	V305a	P129a	-	P305a	V218a	X55a	N05a
10:30	S06a	V306a	P130a	-	P306a	V219a	X56a	N06a
10:42	S07a	V307a	P131a	-	P307a	V220a	X57a	N07a
10:54	S08a	V308a	P132a	-	P308a	V221a	X58a	N08a
11:06	S09a	V309b V310b	P133a	-	P309a	V222a	X59a	N09a
11:18	S10b S11b	-	P134a	-	P310a	V223a	X60a	N10a
11:30	-	-	P135b P136b	-	P311b P312b P313b	V224b V225b	X61a	N11b N12b
11:40	昼休み							
開始時刻	活動銀河核	観測機器 (X線・γ線)	星形成		惑星系	観測機器 (光赤・重)		恒星進化
13:00	S12a	V311a	P137a	-	P315a	V226a	-	N15a
13:12	S13a	V312a	P138a	-	P316a	V227a	-	N16a
13:24	S14a	V313a	P139a	-	P317a	V228a	-	N17a
13:36	S15a	V314a	P140a	-	P318a	V229a	-	N18a
13:48	S16a	V315a	P141a	-	P319a	V230a	-	N19a
14:00	S17a	V316a	P142a	-	P320a	V231a	-	N20a
14:12	S18a	V317a	P143a	-	P321a	V232a	-	N21a
14:24	S19a	V318a	P144a	-	P322a	V233a	-	N22a
14:36	S20a	V319a	P145a	-	P323b	V234a	-	N23a
14:48	S21a	V320a	P146a	-	-	V235a	-	N24a
15:00	-	-	-	-	-	V236a	-	N25a
15:30	ポスター							
16:30	会員全体集会							

## 口頭セッション 3月5日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
開始時刻	活動銀河核	観測機器 (X線・γ線)	星形成		惑星系			恒星進化
09:30	S22a	V321a	P147a	-	P325a	-	-	N26a
09:42	S23a	V322a	P148a	-	P326a	-	-	N27a
09:54	S24a	V323a	P149a	-	P327a	-	-	N28a
10:06	S25a	V324a	P150a	-	P328a	-	-	N29a
10:18	S26a	V325a	P151a	-	P329a	-	-	N30a
10:30	S27a	V326a	P152a	-	-	-	-	N31a
10:42	S28a	V327a	P153a	-	-	-	-	N32a
10:54	-	V328a	P154a	-	-	-	-	N33a
11:06	-	V329a	-	-	-	-	-	N34a
11:18	-	V330a	-	-	-	-	-	N35a
11:30	-	-	-	-	-	-	-	N36a
11:40	昼休み							
13:30	受賞記念講演(林忠四郎賞・研究奨励賞)							
15:30	受賞記念講演(欧文研究報告論文賞)							

※各セッション(午前/午後)の最後に質疑応答(10分)があります。

ポスターセッション 3月2日(水)・3月3日(木)・3月4日(金)

<p>【M. 太陽】(6)</p> <p>M22b M23b M24b M25b M26c M27c</p>	<p>【V1. 観測機器(電波)】(6)</p> <p>V109b V110b V111b V112c V113c V139b</p>
<p>【N. 恒星・恒星進化】(4)</p> <p>N11b N12b N13c N14c</p>	<p>【V2. 観測機器(光赤外・重力波・その他)】(5)</p> <p>V211b V212b V213b V224b V225b</p>
<p>【P1. 星・惑星形成(星形成)】(8)</p> <p>P110b P111b P112b P122b P123b P124c P135b P136b</p>	<p>【V3. 観測機器(X線・<math>\gamma</math>線)】(2)</p> <p>V309b V310b</p>
<p>【P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)】(7)</p> <p>P211b P212b P213b P214c P224c P233b P234b</p>	<p>【W. コンパクト天体】(7)</p> <p>W11b W12b W13b W14c W26b W27b W28b</p>
<p>【P3. 星・惑星形成(惑星系)】(6)</p> <p>P311b P312b P313b P314c P323b P324c</p>	<p>【X. 銀河形成・進化】(9)</p> <p>X20b X21b X22b X23b X24b X25b X26b X27b X28c</p>
<p>【Q. 星間現象】(2)</p> <p>Q10b Q11b</p>	<p>【Y. 天文教育・広報普及・その他】(4)</p> <p>Y07b Y08b Y17b Y18b</p>
<p>【R. 銀河】(4)</p> <p>R09b R10b R16c R19b</p>	
<p>【S. 活動銀河核】(2)</p> <p>S10b S11b</p>	
<p>【U. 宇宙論】(1)</p> <p>U05b</p>	

## M. 太陽

3月2日(水) 午前・D会場		3月2日(水) 午後・D会場			
09:30	M01a	Solar-C(EUVST) Mission の進捗状況 および今後の科学戦略 今田晋亮(東京大学)	13:00	M12a	粒状斑消滅過程におけるMHD計算と 観測の比較 石川遼太郎(総合研究大学院大学/国立 天文台)
09:42	M02a	SUNRISE-3 大気球太陽観測実験: 偏光 分光装置 SCIP のフライト観測を模擬した 太陽光試験 久保雅仁(国立天文台)	13:12	M13a	粒状斑反転構造の生成に関する観測的 研究 大場崇義(国立天文台)
09:54	M03a	国立天文台太陽フレア望遠鏡赤外偏光 分光観測装置データ評価と機器較正改修 森田諭(国立天文台)	13:24	M14a	波動による太陽彩層加熱における磁場 の角度依存性について 児山真夕(東京大学)
10:06	M04a	深層学習を用いた太陽高解像度画像の シーイング除去 福満翔(東京大学/国立天文台)	13:36	M15a	対流層からコロナ・太陽風までの包括的 3次元輻射磁気流体シミュレーション 飯島陽久(名古屋大学)
10:18	M05a	近赤外狭帯域チューナブルフィルターの 開発による彩層ダイナミクスの研究 末松芳法(国立天文台)	13:48	M16a	Ca II 8542Å synthetic Stokes profile on chromospheric reconnection events in 2D RMHD simulation of solar active region ZHOU Xinyu (The University of Tokyo)
10:30	M06a	赤道加速・表面勾配層・極向き子午面還 流を再現した大規模数値シミュレーション 堀田英之(千葉大学)	14:00	M17a	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡を用 いた分光観測によるプロミネンスの物理 量診断と加熱率の評価 橋本裕希(京都大学)
10:42	M07a	惑星形成が太陽ニュートリノフラックスに 及ぼす影響について 國友正信(久留米大学)	14:12	M18a	Demonstration of the mapping of chromospheric magnetic fields by CLASP2.1 石川遼子(国立天文台)
10:54	M08a	太陽黒点群の出現頻度分布、面積分布、 及び総面積分布 桜井隆(国立天文台)	14:24	M19a	SMART/SDDIによる太陽大気における波 動の伝播と磁場との関係の観測的研究 白戸春日(京都大学)
11:06	M09a	過去の観測記録から復元する1940年3月 の激甚宇宙天気現象 早川尚志(名古屋大学)	14:36	M20a	Hinode/EIS を使った 100-200 万度コロナ ループの加熱分布測定 石神瞬(総合研究大学院大学)
11:18	M10a	南極ドームふじアイスコアを用いた10年 スケール太陽周期の同時検出 望月優子(理化学研究所)	14:48	M21a	密度非対称条件におけるプラズモイド型 磁気リコネクションのMHDシミュレーション 山本百華(神戸大学)
11:30	M11a	人工衛星の軌道変化の解析による太陽 活動診断の試み 野澤恵(茨城大学)	15:00	M22b	高磁気レイノルズ数での大規模磁場誘導 と極性反転に関する解析 鳶田遼太(東京大学)
11:42		質疑応答(10分)			

15:00	M23b	黒点相対数計測のための汎用黒点自動 検出手法の開発 花岡庸一郎(国立天文台)	3月3日(木) 午前・D会場
15:00	M24b	ガイド磁場条件での磁気リコネクション の衝撃波構造分析 渡邊悠太郎(神戸大学)	09:30 M28a 太陽フレア 4 クラス確率予報の信頼度 の向上 西塚直人(情報通信研究機構)
15:12	M25b	2021年10月末-11月初頭の一連の フレア・CMEの宇宙天気への影響 塩田大幸(情報通信研究機構)	09:42 M29a 活動領域 NOAA12871 の M2.8 フレアと Sympathetic CME に関わる三次元磁場 構造の解析 木田祐希(京都大学)
	M26c	活動領域 NOAA12882 における小規模 活動現象の時間変動 當村一朗(大阪府立大学工業高等専門 学校)	09:54 M30a 局所的線形フォースフリー磁場近似に 基づく新たな太陽フレア予測の試み 近藤芳穂(名古屋大学)
	M27c	超並列磁気流体シミュレーションコード OpenMHD-GPU の開発 銭谷誠司(神戸大学)	10:06 M31a 三次元磁気流体シミュレーションを用いた フレアループトップにおける乱流の調査 柴田健吾(大阪大学)
15:24		質疑応答(10分)	10:18 M32a 活動領域 12887 で発生した X クラスフ レアの観測データ駆動型磁気流体シ ミュレーション 金子岳史(名古屋大学)
			10:30 M33a Data-driven MHD Simulation of Long- term Temporal Evolution of AR 11283 Yeongmin Kang (Nagoya University)
			10:42 M34a 粒子到達時間の長い太陽高エネルギー 粒子イベントに関する詳細解析 木原孝輔(京都大学)
			10:54 M35a 数値モデルを用いた太陽フレア放射ス ペクトルによる電離圏変動の統計解析 西本将平(防衛大学校)
			11:06 M36a 太陽電波放射の太陽周期活動変動と EUV 放射スペクトルの関係 渡邊恭子(防衛大学校)
			11:18 M37a 太陽フレア EUV 放射によるデリンジャー 現象への影響 北島慎之典(防衛大学校)
			11:30 質疑応答(10分)

## N. 恒星・恒星進化

3月3日(木) 午後・D会場		3月4日(金) 午前・H会場	
13:00	M38a 多波長同時観測で迫るおひつじ座 UX 星で生じた巨大フレアの特徴(2) 北古賀智紀(中央大学)	09:30	N01a K型主系列星 V833 Tau のスーパーフレアの高時間分解能分光観測 前原裕之(国立天文台)
13:12	M39a 太陽・恒星における低温プラズマ噴出の質量とフレアエネルギーについての普遍的な相関関係とスケール則 古谷侑士(京都大学)	09:42	N02a Tomo-e Gozen を用いた M dwarf からの超高速フレアの探索 逢澤正嵩(李政道研究所)
13:24	M40a 太陽型星スーパーフレアに伴うフィラメント噴出モデル 幾田佳(東京大学)	09:54	N03a OH/IR 星 RAFGL5201 の VLBI 位置天文観測と波長 11.6 $\mu\text{m}$ の赤外線帯域での新たな周期光度関係の示唆 中川亜紀治(鹿児島大学)
13:36	M41a 京都大学飛騨天文台 SMART/SDDI を用いた“星としての太陽活動現象”と H $\alpha$ スペクトルの対応に関する研究 II 大津天斗(京都大学)	10:06	N04a K型主系列星 PW And における H $\alpha$ 線分光モニタ観測 村瀬光太郎(兵庫県立大学)
13:48	M42a 可視光測光・分光同時観測で迫る恒星スーパーフレアの彩層放射メカニズム 浪崎桂一(京都大学)	10:18	N05a 近赤外線 Kバンドにおける Line depth ratio 法を用いた星の温度測定 西山正吾(宮城教育大学)
14:00	M43a 太陽型星スーパーフレアに伴う H $\alpha$ 線スペクトル変化の多様性の調査 行方宏介(国立天文台)	10:30	N06a 射影自転速度と半径を用いた恒星の自転周期分布の推定:磁気制動則への示唆 増田賢人(大阪大学)
14:12	M44a M型星フレア中における、彩層線輝線線輪郭の青方偏移現象の分光・測光観測 野津湧太(コロラド大学/東京工業大学)	10:42	N07a Universal Atmospheric Heating Mechanisms of the Sun and Sun-like Stars 鳥海森(宇宙航空研究開発機構)
14:24	M45a PFSS モデルを用いたオープンフラックス問題の研究 吉田南(東京大学)	10:54	N08a 小マゼラン雲の星団で探るレッドクランプ星の近赤外線の色指数の年齢・金属量依存性 小野里宏樹(国立天文台)
14:36	M46a IPS 観測を用いた太陽風モデルの検証 庄田宗人(国立天文台)	11:06	N09a $\alpha$ Ori の低温彩層と低速風 保田悠紀(北海道大学)
14:48	M47a Intensity Ratios of Fe xxv Lines in Solar Flares Observed by <i>Hinode</i> /SOX 渡邊鉄哉(国立天文台)	11:18	N10a LAMOST/すばる望遠鏡による金属欠乏星組成調査 III. $\alpha$ 元素と鉄族元素 青木和光(国立天文台)
15:00	M48a 太陽大気中の沿磁力線プラズマ運動 柴崎清登(太陽物理学研究所)	11:30	N11b 太陽型の零歳主系列星における活動性と黒点による光度変化 山下真依(兵庫県立大学)
15:12	質疑応答(10分)	11:30	N12b 食連星における質量移動と角運動量損失の連星パラメータへの依存性(I): W UMa 型連星 A タイプ 高妻真次郎(中京大学)

11:42	N13c	Multiple giant eruptions and X-ray emission in the pre-SN LBV candidate SDSS1133 小久保充 (プリンストン大学)	3月4日 (金) 午後・H会場	
	N14c	多次元対流効果を取り入れた超新星爆発の1次元シミュレーションによる特性量の相関調査と観測へのフィードバック 佐々木俊輔 (総合研究大学院大学/国立天文台)		
		質疑応答 (10分)		
	13:00	N15a		複数の近赤外高分散分光器を用いたM型矮星の組成決定: 連星観測に基づく検証温度範囲の拡張 石川裕之 (アストロバイオロジーセンター/国立天文台)
	13:12	N16a		赤色超巨星の分光モニタリング - I. サーベイ計画と試験観測結果 谷口大輔 (東京大学)
	13:24	N17a		Seimei KOOLS-IFU Mapping of the Gas and Dust distributions in the PN IC2165 大塚雅昭 (京都大学)
	13:36	N18a		金属欠乏星における i-process 中性子捕獲の特性 山田志真子 (北海道大学)
	13:48	N19a		Luminous red novae の光度曲線について 松本達矢 (コロンビア大学)
	14:00	N20a		突発的質量放出天体 WISEJ180956.27-330500.2 のダストシェル構造 山村一誠 (宇宙航空研究開発機構)
	14:12	N21a		マグネター 1E2259+586 観測時に NuSTAR 衛星で観測された X 線突発天体 袴田知宏 (大阪大学)
	14:24	N22a		大質量星の大規模質量放出現象の輻射流体シミュレーション: 親星外層へのエネルギー注入の依存性 黄天鋭 (東京大学)
	14:36	N23a		超新星直後の中性子星と伴星との衝突現象 平井遼介 (Monash 大学)
	14:48	N24a		HSC transients survey における機械学習を用いた特異天体探査 敏蔭星治 (東北大学)
	15:00	N25a		Ia-CSM 型超新星 2020uem の光度曲線から見積もる星周物質質量とその影響 宇野孔起 (京都大学)
	15:12			質疑応答 (10分)

## P1. 星・惑星形成 (星形成)

3月5日(土) 午前・H会場		3月3日(木) 午前・C会場	
09:30	N26a 磁場を考慮した3次元超新星モデルの初期流体進化 中村航(福岡大学)	09:30	P101a 初代星原始星連星の合体機構 桐原崇亘(甲南大学)
09:42	N27a 無回転大質量星コアの3次元重力崩壊シミュレーションにおける磁場強度依存性 松本仁(慶應義塾大学)	09:42	P102a 収縮する始原ガスコアで増幅された乱流の飽和と散逸 東翔(甲南大学)
09:54	N28a 爆発初期スペクトルの系統的な調査でせまるIa型超新星の親星と爆発機構 小川真央(京都大学)	09:54	P103a 乱流磁場が初代星形成に与える影響 定成健児エリック(東北大学)
10:06	N29a 超新星爆発に対するアキシオン加熱の影響 森寛治(福岡大学)	10:06	P104a 低金属量環境下における星の質量分布に対する輻射フィードバックの影響 鄭昇明(東北大学)
10:18	N30a Ia型超新星の二重爆轟波モデルにおけるヘリウム表層の着火過程の球対称1次元シミュレーション 岩田和也(京都大学)	10:18	P105a 自己輻射と金属汚染を考慮した超大質量ブラックホール形成 千秋元(東北大学)
10:30	N31a 元素合成計算における核物理の不定性の影響:sプロセス 西村信哉(理化学研究所)	10:30	P106a 分子雲形成時の乱流星形成描像とその金属量依存性 小林将人(国立天文台)
10:42	N32a Discovering Supernovae at Epoch of Reionization with Nancy Grace Roman Space Telescope 守屋堯(国立天文台)	10:42	P107a 分子雲形成・進化シミュレーション:高密度クランプの重力不安定条件 岩崎一成(国立天文台)
10:54	N33a フォールバック降着による低エジェクタ質量トランジェントの光度曲線 澤田涼(東京大学)	10:54	P108a 星形成領域 NGC 1333 の磁場構造 III 土井靖生(東京大学)
11:06	N34a VLAで探る超高光度超新星からの後期電波放射および母銀河の星形成活動 廿日出文洋(東京大学)	11:06	P109a BISTRO Project Status (10) Tetsuo Hasegawa (NAOJ)
11:18	N35a Early Report on the OISTER Follow-Up Observations of a Super-Chandrasekhar Supernova Candidate SN 2021zny 山中雅之(京都大学)	11:18	P110b Stream Velocityによる超音速駆動ガスタ体の統計的性質 仲里佑利奈(東京大学)
11:30	N36a Super-Linear II型超高輝度超新星におけるIa-CSM型由来の可能性 平松大地(Center for Astrophysics   Harvard & Smithsonian)	11:18	P111b 初代星形成における大質量原始星近傍での輻射流体計算 木村和貴(京都大学)
11:42	質疑応答(10分)	11:18	P112b フィラメント分子雲の自己重力分裂による分子雲コアと原始星の形成 吹原瑠(鹿児島大学)
		11:30	質疑応答(10分)

3月3日(木) 午後・C会場		3月4日(金) 午前・C会場	
13:00	P113a ALMA ACAによる大マゼラン雲超広域CO探査(1):Molecular ridge領域における大質量原始星に付随するフィラメント状分子雲普遍性の検証 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)	09:30	P125a 野辺山45m鏡によるオリオン座分子雲コアの収縮運動サーベイ 立松健一(国立天文台)
13:12	P114a ALMA ACAによる大マゼラン雲超広域CO探査(2):Molecular ridge領域における高密度分子雲クランプの分布 南大晴(大阪府立大学)	09:42	P126a GMCの進化と星形成;銀河面におけるO-starless GMCの性質 山田麟(名古屋大学)
13:24	P115a 大質量星形成領域の遠赤外線[CII]輝線広域観測を進める日印共同気球実験 大藪進喜(徳島大学)	09:54	P127a 低金属量環境下における星生成クラスターの初期質量関数導出 I: Sh 2-209 安井千香子(国立天文台)
13:36	P116a 大質量星団形成時の観測的徴候 猪口睦子(京都大学)	10:06	P128a ALMA ACAサーベイで探るCorona Australis領域の星形成(4) 西岡丈翔(名古屋大学)
13:48	P117a Dense cores at the early phase of high-mass star formation 森井嘉穂(東京大学/国立天文台)	10:18	P129a ALMA高分解能データで探る星団形成領域Corona Australis IRS7における分子雲コアの分裂 深谷直史(名古屋大学)
14:00	P118a Cloud-in-cloud simulations of star cluster formation 福島肇(筑波大学)	10:30	P130a JCMT 2波長偏波観測で見えてきた分子雲コアL1521Fの星形成の現場 深谷紗希子(鹿児島大学)
14:12	P119a MHDシミュレーションで探る分子雲コア衝突 木下真一(東京大学)	10:42	P131a マルチスケール観測から探る原始星エンベロープ/コアの力学 崔仁士(台湾中央研究院)
14:24	P120a 衝撃波圧縮の継続時間を考慮した分子雲における誘発的星形成シミュレーション 安部大晟(名古屋大学)	10:54	P132a 原始星天体BHB07-10のエンベロープに形成された衝撃波の波紋構造 西合一矢(東京大学)
14:36	P121a 分子雲コアの収縮におけるダストの成長破壊と非理想磁気流体効果への影響 川崎良寛(九州大学)	11:06	P133a すばるHSCによる新たな褐色矮星の探査と銀河系構造の推定 坂本茉莉江(愛媛大学)
14:48	P122b 分子雲衝突によって誘発されたW49Nのスターバースト 宮脇亮介(桜美林大学)	11:18	P134a Orion Nebulaの形成と大質量星の運動について 藤井通子(東京大学)
14:48	P123b コア合体による原始星への降着率の時間変動 矢野雄大(東京大学)	11:30	P135b 高銀緯分子雲MBM16.24における深い可視分光探査観測 大朝由美子(埼玉大学)
	P124c HIガス衝突による大質量星団形成における星形成フィードバック効果の影響 前田龍之介(名古屋大学)	11:30	P136b 不規則に変光するYSO候補天体の分光観測 八木恵(兵庫県立大学)
15:00	質疑応答(10分)	11:42	質疑応答(10分)

3月4日(金) 午後・C会場		3月5日(土) 午前・C会場	
13:00	P137a 磁気流体シミュレーションによる原始星周囲の磁場構造の解明 井上慎一郎(九州大学)	09:30	P147a The Detection of a Hot Molecular Core in the Extreme Outer Galaxy 下西隆(新潟大学)
13:12	P138a 原始星の境界層降着に関する磁気流体計算 高棹真介(大阪大学)	09:42	P148a The inventory of Nitrogen-bearing organics towards G+0.693-0.027 Shaoshan Zeng (RIKEN)
13:24	P139a 成長する連星周囲の降着流の構造 森井健翔(茨城大学)	09:54	P149a Vibrationally-excited Lines of HC <sub>3</sub> N Tracing the Disk Structure around the G 24.78+0.08 A1 Hyper-compact HII Region 谷口琴美(国立天文台)
13:36	P140a 回転降着エンベロープの模擬観測: L1527 観測の再解析 森昇志(東北大学)	10:06	P150a Hot Corino Activity in IRAS 15398-3359 at a 50 au Scale 大小田結貴(東京大学)
13:48	P141a W49N MCN-a: 自己重力円盤による大質量原始星への降着 宮脇亮介(桜美林大学)	10:18	P151a IRAS 16293-2422 Source A の星周円盤における複雑な飽和有機分子の分布 大屋瑤子(東京大学)
14:00	P142a 大質量原始星候補天体 Orion Source I における ALMA バンド 10 連続波観測 廣田朋也(国立天文台)	10:30	P152a High NH <sub>2</sub> D/NH <sub>3</sub> ratios around the low-mass protobinary NGC1333 IRAS4A 大和義英(東京大学)
14:12	P143a 磁化した乱流分子雲コア中における単極アウトフローの形成 高石大輔(鹿児島大学)	10:42	P153a PEACHES IV: Sulfur-bearing Molecules in Protostars in the Perseus Molecular Cloud Ziwei E. Zhang (RIKEN)
14:24	P144a ALMA アーカイブデータを用いた太陽系近傍星形成領域における原始星アウトフローの統計的研究(3): 中間質量原始星 DK Cha のケーススタディ(II) 原田直人(九州大学)	10:54	P154a Temperature structure of the Class I protostar Elias 29 and its environment 雑賀恵理(東京大学)
14:36	P145a ALMA アーカイブデータを用いた太陽系近傍星形成領域における原始星アウトフローの統計的研究(4): 小質量原始星 Ser-emb 15 のケーススタディ(I) 佐藤亜紗子(九州大学)	11:06	質疑応答(10分)
14:48	P146a MAGellanic Outflow and chemistry Survey (MAGOS): the Power of LMC Protostellar Outflows 田中圭(コロラド大学ボルダー校/国立天文台)		
15:00	質疑応答(10分)		

## P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)

3月2日(水) 午前・F会場			P214c パブリックコードを用いた理想気体の状態方程式とオパシティのテーブル構築 廣瀬重信(海洋研究開発機構)
09:30	P201a 原始惑星系円盤の温度進化計算のための大局2層モデルの開発 奥住聡(東京工業大学)	11:42	質疑応答(10分)
09:42	P202a 鉛直シア不安定性乱流に対する原始惑星系円盤の熱緩和構造の影響 福原優弥(東京工業大学)	3月2日(水) 午後・F会場	
09:54	P203a 原始惑星系円盤の磁束輸送: 電離度と降着流の鉛直構造を考慮したモデル化 榎本晴日(東京工業大学)	13:00	P215a 低温かつ任意のダストサイズ分布で正確な磁気抵抗値の解析モデルの開発 塚本裕介(鹿児島大学)
10:06	P204a 磁場に沿った宇宙線の伝播と原始惑星系円盤の電離率分布 藤井悠里(京都大学)	13:12	P216a ダスト成長・破壊を伴う原始惑星系円盤の不安定性によるダスト濃集 富永遠佑(理化学研究所)
10:18	P205a 磁気流体シミュレーションを用いた遷移円盤周りの星風構造の調査 海野真輝(大阪大学)	13:24	P217a 大質量原始星円盤におけるダスト成長: 岩石ダストは付着しやすいか? 山室良太(東京工業大学)
10:30	P206a Early Planet Formation in Embedded Disks (eDisk): First-look results Nagayoshi Ohashi (ASIAA)	13:36	P218a 分子動力学で探るモノマー間相互作用 吉田雄城(東京大学)
10:42	P207a 低質量天体 ZZ Tau IRS 周囲の原始惑星系円盤における非軸対称リング構造 武藤恭之(工学院大学)	13:48	P219a 可視光・近赤外線散乱偏光で探るダストアグリゲイトのモノマー半径 田崎亮(アムステルダム大学)
10:54	P208a ALMA 多波長観測で明らかにした CW Tau 周り的大質量コンパクト円盤 植田高啓(国立天文台)	14:00	P220a 磁気駆動円盤風で進化する原始惑星系円盤における結晶質ケイ酸塩ダスト粒子の動径分布 荒川創太(国立天文台)
11:06	P209a Taurus Class II 原始惑星系円盤の ALMA 超解像サーベイ 1. 円盤の下部構造 山口正行(東京大学/国立天文台)	14:12	P221a 原始惑星系円盤 HD 163296 のダストリング形成機構の推定 土井聖明(総合研究大学院大学/国立天文台)
11:18	P210a Subaru/VAMPIRES を用いた H $\alpha$ 高コントラスト撮像: 原始惑星系円盤内における惑星形成とジェットの見出し 鵜山太智(NAOJ/Caltech-IPAC/NExSci)	14:24	P222a ALMA 観測を用いた原始惑星系円盤のダスト組成への制限 片岡章雅(国立天文台)
11:30	P211b thin-disk 近似を用いた1次元自己重力磁気流体力学コードの開発 小林雄大(鹿児島大学)	14:36	P223a 高分散分光観測によるdipper天体の特徴づけと減光原因の推定 笠木結(総合研究大学院大学)
11:30	P212b 原始惑星系円盤における磁束輸送過程 岩崎一成(国立天文台)		P224c ダストアグリゲイト間の衝突破壊に関する破片と質量比の関係性 長谷川幸彦(東京大学)
11:30	P213b 磁場を考慮した鉛直シア不安定性由来の乱流 小野智弘(東京工業大学)	14:48	質疑応答(10分)

## P3. 星・惑星形成 (惑星系)

3月3日(木) 午前・F会場		3月4日(金) 午前・E会場	
09:30	P225a ALMAによる原始惑星系円盤の [C]( $3P_1-3P_0$ ) 観測 II 塚越崇(国立天文台)	09:30	P301a 夜空のフラウンホーファー線観測による 黄道光の絶対輝度測定 繁澤政樹(関西学院大学)
09:42	P226a 原始惑星系円盤における分子ガス同位 体比の新しい測定手法とその TW Hya 円盤の $^{12}\text{CO}/^{13}\text{CO}$ 比への応用 吉田有宏(総合研究大学院大学/国立 天文台)	09:42	P302a はやぶさ2サンプルリターンカプセル再 突入における ELF/VLF 電波観測 渡邊堯(情報通信研究機構)
09:54	P227a 大気から探る惑星形成: 円盤影領域に よる木星大気の揮発性元素超過の説明 大野和正(University of California, Santa Cruz)	09:54	P303a アウトバースト直後の 29P/ Schwassmann-Wachmann 1 のジェット 構造の発生メカニズム解析 中澤淳一郎(総合研究大学院大学)
10:06	P228a $\text{H}_2\text{O}$ スノーライン以遠に影構造を持つ原始 惑星系円盤の詳細化学構造 II. 有機分子 組成&電離度・初期化学組成依存性 野津翔太(理化学研究所)	10:06	P304a アルマによる海王星上部成層圏東西風 の緯度・高度構造の直接観測 飯野孝浩(東京大学)
10:18	P229a 半揮発性物質の輸送に伴う原始惑星系 円盤および巨大ガス惑星の元素濃縮 中澤風音(東京工業大学)	10:18	P305a Eccentric von Zeipel-Lidov-Kozai Mechanism in the Solar System 船渡陽子(東京大学)
10:30	P230a 超木星質量惑星による原始惑星系円盤 へのギャップ形成と惑星への質量降着率 田中佑希(東北大学)	10:30	P306a 原始惑星の重力散乱と衝突合体によって 形成される惑星系の軌道構造 小久保英一郎(国立天文台)
10:42	P231a Planetesimal Dynamics in the Presence of a Giant Planet Kangrou Guo (The University of Tokyo/ NAOJ)	10:42	P307a 巨大衝突の数値計算結果に原始地球 の自転が与える影響 細野七月(神戸大学)
10:54	P232a 現実的な合体条件を考慮した岩石微惑星 の集積過程の研究 柴田雄(国立天文台)	10:54	P308a 巨大衝突後における惑星内部構造の 推定と残留大気の長期安定性の検討 黒崎健二(名古屋大学)
11:06	P233b 巨大惑星を持つ原始惑星系円盤の3次元 流体シミュレーション 金川和弘(茨城大学)	11:06	P309a ホットジュピターの大气散逸における FUV 加熱の役割 三谷啓人(東京大学)
11:06	P234b 巨大衝突起源のデブリ円盤の特徴解明 に向けた巨大衝突シミュレーション 小林浩(名古屋大学)	11:18	P310a 恒星高エネルギー粒子のフルエンスを 考慮した惑星への影響評価(その2) 山敷庸亮(京都大学)
11:18	質疑応答(10分)	11:30	P311b 火星の可視光偏光観測 川上碧(兵庫県立大学)
		11:30	P312b Investigating the existence of a new planet in the outer solar system Ptryk Sofia Lykawka (Kindai University)

11:30	P313b Eccentric Kozai-Lidov 機構による Octupole 振動 稲熊穂乃里 (東京大学)	14:36	P323b 太陽系外惑星 Qatar1 b の近赤外トランジット測光観測 平野佑弥 (兵庫県立大学)
	P314c 地球型惑星における光合成由来の酸素の双安定性 小松勇 (アストロバイオロジーセンター/国立天文台)		P324c 埼玉大学 SaCRA 望遠鏡 / MuSaSHI と 36cm 望遠鏡を用いた、系外惑星の多波長トランジット測光観測 大朝由美子 (埼玉大学)
11:42	質疑応答 (10 分)	14:48	質疑応答 (10 分)
3 月 4 日 (金) 午後・E 会場		3 月 5 日 (土) 午前・E 会場	
13:00	P315a Regular Radial velocity variations in Nine G- and K-type Giant Stars: Eight Planets and One Planet Candidate Huan-Yu Teng (Tokyo Institute of Technology)	09:30	P325a 系外惑星大気赤外分光観測衛星計画 ESA-M4 Ariel への参入に向けて 生駒大洋 (国立天文台)
13:12	P316a IRD 戦略枠観測による惑星の発見: 低温 M 型星のハビタブルゾーン内側境界近傍を公転するスーパーアース 小谷隆行 (アストロバイオロジーセンター/国立天文台/総合研究大学院大学)	09:42	P326a 太陽系外地球型惑星大気観測に向けた国際紫外線天文衛星 WSO-UV 計画 亀田真吾 (立教大学)
13:24	P317a IRD-SSP による M 型星周りの惑星サーチ: 3年目の観測状況 大宮正士 (アストロバイオロジーセンター)	09:54	P327a JASMINE 衛星による精密測光観測 平野照幸 (アストロバイオロジーセンター)
13:36	P318a 近赤外スペクトルにおける視線速度測定精度の向上 池田圭吾 (東京工業大学)	10:06	P328a 中程度のスペクトル帯域幅を備えた超解像コロナグラフ 伊藤哲司 (名古屋大学)
13:48	P319a 惑星運動と恒星活動の判別: 機械学習による視線速度データへのアプローチ 中西亮介 (東京工業大学)	10:18	P329a Gaia 天体を基にしたデブリ円盤検出頻度の算出 水木敏幸 (茨城大学)
14:00	P320a MuSCAT シリーズとすばる望遠鏡 IRD インテンシブ観測による TESS トランジット惑星候補のフォローアップ観測 II 成田憲保 (東京大学)	10:30	質疑応答 (10 分)
14:12	P321a 明るい M 型星をまわる低日射の小型トランジット惑星 TOI-2285b の発見 福井暁彦 (東京大学)		
14:24	P322a 高金属量 mid-M 型星をトランジットする巨大惑星 TOI-519b の質量決定 蔭谷泰希 (東京大学)		

## Q. 星間現象

3月2日(水) 午前・E会場		3月2日(水) 午後・E会場	
09:30	Q01a 銀河面上における星形成前段階の星間ガスの探索 本多優一(東京大学)	13:00	Q12a The Long Tails of the Pegasus-Pisces Arch Intermediate Velocity Cloud 立原研悟(名古屋大学)
09:42	Q02a 輝線強度の頻度分布(BDF)による銀河系内分子ガスの分類と占有率の定量化 阪本成一(国立天文台)	13:12	Q13a 中高銀緯広域における中間速度雲の重元素量空間分布(3) 早川貴敬(名古屋大学)
09:54	Q03a 星間媒質中を高速移動する強重力源の軌跡:長大直線状構造の起源の理論的研究 北島欽大(名古屋大学)	13:24	Q14a 銀河面に降り注ぐ中間速度中性水素雲 福井康雄(名古屋大学)
10:06	Q04a 機械学習アルゴリズムを用いた分子輝線データからのH <sub>2</sub> 柱密度の予測 島尻芳人(国立天文台)	13:36	Q15a Laboratory Measurement of Millimeter-wave Transitions of <sup>13</sup> CH <sub>2</sub> DOH for Astronomical Use 小山貴裕(理化学研究所)
10:18	Q05a 機械学習アルゴリズムを用いたNear-Far問題の解法(3) 藤田真司(大阪府立大学)	13:48	Q16a 電波星雲 W50 東端領域と分子雲との相互作用 酒見はる香(鹿児島大学)
10:30	Q06a The NANTEN Galactic Plane Survey II:(分子雲同定と距離決定) 西川薫(名古屋大学)	14:00	Q17a JVN 高感度少数基線を用いた銀河面上の未分解コンパクト電波源に対する種族推定 元木業人(山口大学)
10:42	Q07a 深層学習を用いたCygnus X領域の赤外線リング構造の同定 西本晋平(大阪府立大学)	14:12	Q18a 3次元輻射流体力学計算で探るブラックホール降着円盤へのBondi-Hoyle-Lyttleton過程 尾形絵梨花(筑波大学)
10:54	Q08a 野辺山45m望遠鏡を用いたIC1396Nのアンモニア分子輝線観測 竹葉理史(鹿児島大学)	14:24	Q19a 宇宙線が誘起するBiermann battery効果による磁場生成 横山将汰(東京大学)
11:06	Q09a 大マゼラン雲における銀河間潮汐相互作用による大質量星形成 柘植紀節(Dr. Karl Remeis-Sternwarte, Friedrich-Alexander University)	14:36	Q20a 宇宙線によって引き起こされる宇宙での放電現象 大平豊(東京大学)
11:18	Q10b 野辺山45m Local Spur COサーベイ:こぎつね座OBアソシエーションにおける巨大フィラメント状分子雲と星団形成II 河野樹人(名古屋市科学館)	14:48	Q21a COMPTELによるMeV拡散銀河ガンマ線の起源の検証 辻直美(理化学研究所)
11:18	Q11b アンモニアマッピングサーベイプロジェクト(KAGONMA):星形成活動が周辺分子ガスへ及ぼす影響 村瀬建(鹿児島大学)	15:00	質疑応答(10分)
11:30	質疑応答(10分)		

## Q. 星間現象

3月3日(木) 午前・E会場		3月3日(木) 午後・E会場	
09:30	Q22a 星風中を伝播する超新星残骸における宇宙線の逃走過程と最高エネルギー 上島翔真(東京大学)	13:00	Q32a X線で探るカシオペア座A南東領域の爆発噴出物逆転層の起源 土岡智也(立教大学)
09:42	Q23a 様々な環境における超新星残骸の非熱的放射の長時間にわたる計算 小橋亮介(京都大学)	13:12	Q33a <i>Chandra</i> によるSN1006北西部衝撃波の空間分解解析:重元素分布と電子温度 市橋正裕(東京大学)
09:54	Q24a パルサー星雲広帯域放射の乱流加速モデル 田中周太(青山学院大学)	13:24	Q34a 超新星残骸W28の過電離プラズマにおける初期状態の観測的研究 火物瑠偉(奈良教育大学)
10:06	Q25a X線帯におけるカニ星雲南側ジェットの長期間変動 金丸善朗(宮崎大学)	13:36	Q35a 実験室に超新星残骸をつくる—LHDプラズマ分光実験による鉄族元素のL殻輝線測定と電離非平衡プラズマモデルの検証— 大城勇憲(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
10:18	Q26a 再結合優勢プラズマを持つ超新星残骸G346.6-0.2に付随する星間雲 佐野栄俊(国立天文台)	13:48	Q36a 天文学への応用を目指した小型電子ビームイオントラップ(EBIT)の開発 天野雄輝(京都大学)
10:30	Q27a ガンマ線超新星残骸Puppis Aに付随する分子ガスと原子ガス 有賀麻貴(名古屋大学)	14:00	質疑応答(10分)
10:42	Q28a <i>Chandra</i> 衛星による超新星残骸カシオペア座Aの北東領域のX線時間変動解析 小湊菜央(立教大学)		
10:54	Q29a <i>Suzaku</i> 衛星による超新星残骸RX J0852.0-4622の衝撃波全縁の空間分離スペクトル解析 佐々木寅旭(埼玉大学)		
11:06	Q30a 超新星残骸RCW 86南西部での衝撃波加速効率の環境依存性の調査 鈴木寛大(甲南大学)		
11:18	Q31a 特性X線のドップラー解析によるTychoの超新星残骸における噴出物の膨張構造の解明 春日知明(東京大学)		
11:30	質疑応答(10分)		

## R. 銀河

3月2日(水) 午前・C会場		3月2日(水) 午後・C会場			
09:30	R01a	NRO レガシープロジェクト COMING (31): 近傍銀河における星形成活動に対する 渦巻腕の影響に関する観測的研究 保田敦司(筑波大学)	13:00	R11a	The Cold AGN Outflow in NGC 1068 Characterized by Dissociation Sensitive Molecules using Two-dimensional PCA 斉藤俊貴(日本大学/国立天文台)
09:42	R02a	棒渦巻銀河の棒部における星形成効率 の統計的調査 前田郁弥(東京大学)	13:12	R12a	Astrometry of Sagittarius A* using ALMA Masato Tsuboi (ISAS/JAXA)
09:54	R03a	CO( $J=1-0$ ) mapping survey of 64 Fornax galaxies with the ALMA Morita array Kana Morokuma (The University of Tokyo)	13:24	R13a	NGC 253 中心部における非回転ガス軌道 の同定 榎谷玲依(慶應義塾大学)
10:06	R04a	近傍渦巻銀河における巨大分子雲の星 形成活動度 出町史夏(名古屋大学)	13:36	R14a	天の川銀河 N 体シミュレーションにおける 速度空間分布の時間変動と共鳴軌道 朝野哲郎(東京大学)
10:18	R05a	巨大分子雲における星形成と銀河進化: M33 (2) 小西亜侑(大阪府立大学)	13:48	R15a	すばる望遠鏡/Hyper Suprime-Cam 用 挟帯域フィルター NB515で探るアンドロ メダ銀河恒星ハローの構造 II 小上樹(法政大学)
10:30	R06a	分子雲衝突による星形成と銀河シミュ レーション 堀江秀(北海道大学)		R16c	On the dynamical mass of galaxies 小平桂一(MPIfR/国立天文台/総合研究 大学院大学)
10:42	R07a	ALMA による超高光度赤外線銀河の水 分子、及び、高密度分子ガスの観測 今西昌俊(国立天文台)	14:00	R17a	重力レンズ効果を用いた銀河磁場観測の シミュレーション 大前陸人(総合研究大学院大学)
10:54	R08a	水素輝線強度比異常が示唆する ULIRG の高密度星形成と JWST 観測の展望 馬場俊介(鹿児島大学)	14:12	R18a	銀河面からの軟 X 線背景放射 (8) 安福千貴(名古屋大学)
11:06	R09b	銀河系の渦状構造と分子雲の BDI の関係 権代大河(筑波大学)	14:24	R19b	偏波解消の周波数依存性から探る渦状 銀河の磁場分散推定 田嶋裕太(総合研究大学院大学/国立 天文台)
11:06	R10b	スターバースト銀河 NGC 1808 における 巨大分子雲の性質 II. Atacama Compact Array による広がった分子ガスの有無の 影響 矢島義之(北海道大学)	14:36		質疑応答(10分)
11:18		質疑応答(10分)			

## S. 活動銀河核

## S. 活動銀河核

3月4日(金) 午前・A会場		3月4日(金) 午後・A会場	
09:30	S01a 相対論的流体中での因果律を保った光子多重散乱効果 高橋 芳太(苫小牧工業高等専門学校)	13:00	S12a eROSITA view of an extremely infrared-luminous AGN at $z = 1.87$ 鳥羽儀樹(京都大学)
09:42	S02a 逆コンプトン散乱による冷却を考慮したセイファート銀河における軟X線放射領域の輻射磁気流体シミュレーション 五十嵐 太一(千葉大学)	13:12	S13a 多波長 SED 解析で解明する合体銀河中の活動銀河核とポーラーダストの構造 山田 智史(京都大学)
09:54	S03a Constructing synthetic images of GRMHD models for AGN jets by applying the general relativistic radiative transfer code RAIKOU 荻原 大樹(筑波大学)	13:24	S14a 合体銀河 Mrk 739 が持つ二重 AGN の広帯域 X 線スペクトル解析 稲葉 昂希(京都大学)
10:06	S04a 宇宙ジェットのインフロー領域 高橋 真聡(愛知教育大学)	13:36	S15a ALMA Lensing Cluster Survey: 多波長観測による遠方 AGN の探査 植松 亮祐(京都大学)
10:18	S05a Blandford-Znajek 過程による時空の時間変化 當 真賢二(東北大学)	13:48	S16a 電波観測による超高光度赤外線銀河中の埋もれた活動銀河核の探索 林 隆之(麻布中学校・高等学校/国立天文台)
10:30	S06a 強磁場降着流ガンマ線放射モデル: 近傍電波銀河の観測データとの比較 久世 陸(東北大学)	14:00	S17a Chandra と ALMA CO( $J=2-1$ ) データを用いた AGN の X 線放射が周辺ガスに与える影響の研究 川室 太希(Universidad Diego Portales)
10:42	S07a A robust lower bound on intergalactic magnetic fields from Fermi/LAT and MAGIC observations of 1ES 0229+200 Ievgen Vovk (The University of Tokyo)	14:12	S18a パーセク解像度の分子・原子ガス観測で調べる AGN トーラスの動的構造 泉 拓磨(国立天文台)
10:54	S08a 活動銀河核ウインド・トーラス起源のニュートリノ・ガンマ線・電波放射 井上 進(文教大学/理化学研究所)	14:24	S19a 低質量 AGN 輻射駆動噴水モデルにおける Warm Absorber 小川 翔司(京都大学)
11:06	S09a 3次元一般相対論的磁気流体降着流における高エネルギー・ニュートリノ放射 川島 朋尚(東京大学)	14:36	S20a ALMAによる近傍活動銀河核の水メーザーの連続観測 荻原 喜昭(東洋大学)
11:18	S10b 歳差運動するブラックホール降着流と相対論的ジェットの放射特性 川島 朋尚(東京大学)	14:48	S21a CO 振動回転遷移吸収線を用いた分子トーラス内部構造進化の研究 大西 崇介(東京大学)
11:18	S11b 数値モデルと X 線模擬観測で探る活動銀河核ジェット前進衝撃波の特性 大村 匠(東京大学)	15:00	質疑応答(10分)
11:30	質疑応答(10分)		

## T. 銀河団

3月5日(土) 午前・A会場		3月2日(水) 午前・H会場	
09:30	S22a AGN ダスト減光量から得られる AGN フィードバックへの示唆 水越翔一郎(東京大学)	09:30	T01a Faraday Tomographyを用いた銀河団電波ハロー数値モデルの二次元的解析 菅原充祥(山形大学)
09:42	S23a 冷たいガスを軸とした銀河団中心銀河での AGN feedback 藤田裕(東京都立大学)	09:42	T02a すばる望遠鏡を用いた銀河団中の AGN fraction 分布の調査 橋口葵(奈良女子大学)
09:54	S24a 活動銀河核における質量降着環境 井上一(宇宙航空研究開発機構)	09:54	T03a ひとみ衛星とすざく衛星を統合したペルセウス銀河団からの暗黒物質由来の輝線探索 III 福一誠(立教大学)
10:06	S25a 東アジア VLBI 観測網で探るいて座 A* の電波放射領域 紀基樹(工学院大学)	10:06	T04a 初期の衝突銀河団 CIZA J1358.9 -4750 における衝突構造の 3 次元モデル化と高分解能分光観測で期待される観測量 大宮悠希(名古屋大学)
10:18	S26a スパースモデリングによる VLBA の超解像画像におけるブレーザー 3C 454.3 ジェットの螺旋運動の発見 笹田真人(広島大学)	10:18	T05a NuSTAR 衛星による RX J1347.5 - 1145 銀河団の硬 X 線観測 柴田実桜(奈良女子大学)
10:30	S27a BL Lacertae 2020-2021 年フレア時の可視光・近赤外線同時連続偏光観測によるジェット中磁場構造および放射領域の研究 今澤遼(広島大学)		
10:42	S28a 直線偏光・円偏光画像から探る、活動銀河核 M87 のジェット-円盤構造 恒任優(京都大学)		
10:54	質疑応答(10分)		

## U. 宇宙論

## U. 宇宙論

3月2日(水) 午前・H会場		3月2日(水) 午後・H会場	
10:30	U01a 超軽量 axion が CMB 偏光モードに作る宇宙複屈折効果 並河俊弥 (Kavli IPMU)	13:00	U06a Dark Quest II: Super-Resolution Emulation による宇宙大規模構造エミュレータ 田中賢 (京都大学)
10:42	U02a DES Y3 と Fermi LAT によるダークマター 対消滅に関する制限 西澤淳 (名古屋大学)	13:12	U07a Dark Quest II: 宇宙の大規模構造高精度 解析コードの整備状況 西道啓博 (京都大学)
10:54	U03a 活動銀河核ダストオーラスを用いた原始 ブラックホール存在量への新たな制限 柳澤馨 (大阪大学)	13:24	U08a 曲率を持つ宇宙の質量密度揺らぎの非 線形パワースペクトルの計算法の開発 寺澤凌 (東京大学 / Kavli IPMU)
11:06	U04a Discriminating Gravitational Potential Models on Galactic Scales Haixia Ma (Nagoya University)	13:36	U09a Lyman $\alpha$ サーベイによる RSD 効果の検出 可能性 中島光一郎 (名古屋大学)
11:18	U05b Fuzzy Dark Matter ハローの大域的密度 プロファイルの理論モデル 河合宏紀 (東京大学)	13:48	U10a ガウス過程回帰を用いた前景放射除去 伊東拓実 (熊本大学)
11:30	質疑応答 (10 分)	14:00	U11a 初代星が宇宙論的 21-cm 線シグナルに 及ぼす影響 伊元聖也 (名古屋大学)
		14:12	U12a Upper limits on Einstein's weak equivalence principle placed by uncertainties of dispersion measures of fast radio bursts 橋本哲也 (National Chung Hsing University)
		14:24	U13a すばる望遠鏡の原始 He 量測定で検証 する宇宙論モデルと反レプトン存在比 松本明訓 (東京大学)
		14:36	U14a 新光子モデルと現行光子モデル 及び それぞれからの宇宙像等 藤原ケイ
		14:48	U15a U1.27 による、宇宙の質量と泡構造と銀 河と恒星の生成 (中心が太陽質量のブ ラックホールに成るために必要な質量) 小堀しづ
		15:00	質疑応答 (10 分)

## V1. 観測機器 (電波)

3月2日(水) 午前・B会場		3月2日(水) 午後・B会場	
09:30	V101a FITSWEBQLSE とその周辺 (C/C++, FORTRAN, Rust, Julia, Python 等) Christopher Zapart (国立天文台)	13:00	V114a SKA プロジェクトへの参加計画 5 小林秀行 (国立天文台)
09:42	V102a 茨城観測局電波望遠鏡搭載広帯域 CX 帯円偏波分離器の開発 2 知念翼 (大阪府立大学)	13:12	V115a SKA プロジェクトに向けた科学検討 5 赤堀卓也 (国立天文台/SKA天文台)
09:54	V103a VERA広帯域両偏波観測の性能評価報告 秦和弘 (国立天文台)	13:24	V116a 水沢 10m 電波望遠鏡の低周波帯受信システムの開発と教育への使用 亀谷收 (国立天文台)
10:06	V104a 広帯域受信機のための高温超伝導クワッドバンド帯域通過フィルタの開発 良知颯太 (山梨大学)	13:36	V117a 電波望遠鏡受信機の高感度化に向けた低損失導波管回路の基礎開発 中島拓 (名古屋大学)
10:18	V105a 次世代マイクロ波放射計兼広帯域 VLBI 受信システムの開発 (II) 氏原秀樹 (京都大学)	13:48	V118a 局部発振器信号の高純度化による受信機雑音の低減 堀裕一 (名古屋大学)
10:30	V106a 野辺山 45m 鏡 7 ビーム 3 帯域両偏波受信機の開発 XI: 進捗概要報告 III 長谷川豊 (大阪府立大学)	14:00	V119a DESHIMA 2.0: Development overview of the 220–440 GHz integrated superconducting spectrometer and the planned scientific observation campaign on ASTE 谷口暁星 (名古屋大学)
10:42	V107a 野辺山 45m 鏡 7 ビーム 3 帯域両偏波受信機の開発 XII: 誘電体レンズの表面に最適な反射防止構造の検討 山崎康正 (大阪府立大学)	14:12	V120a 北半球最高感度ミリ波サブミリ波ヘテロダイン受信システム LMT-FINER II. デジタルサイドバンド分離広帯域分光計の性能評価 萩本将都 (名古屋大学)
10:54	V108a 野辺山 45m 鏡に搭載された eQ 受信機計画の概要と現状 中村文隆 (国立天文台)	14:24	V121a 次世代太陽風観測装置に向けたデジタルアレイの開発検討 岩井一正 (名古屋大学)
11:06	V109b 野辺山 45m 鏡 eQ 受信機の搭載及び光学系の評価 山崎康正 (大阪府立大学)	14:36	V122a ミリ波補償光学の開発 VI. 20 GHz 波面センサの複素帯域透過特性の較正方法とその時間安定性の検証 中村友子 (日本女子大学)
11:06	V110b 電波点回折干渉計のための超伝導回路を用いた相関型偏波計の試作に向けた設計 永井誠 (国立天文台)	14:48	V123a ミリ波補償光学の開発 VII. アンテナ鏡面-受信機間の超過経路長の測定による鏡面変形の評価 中野覚矢 (名古屋大学)
11:06	V111b Wavelets and sparsity for solving the inverse problem in Faraday tomography Suchetha Cooray (Nagoya University)	15:00	質疑応答 (10分)
	V112c 高萩/日立 32 m 電波望遠鏡の整備状況 2022A 米倉覚則 (茨城大学)		
	V113c VERA-upgrade for EAVN and GVLBI 計画の進捗 V 小山友明 (国立天文台)		
11:18	質疑応答 (10分)		

## V1. 観測機器

3月3日(木) 午前・B会場		3月3日(木) 午後・B会場	
09:30	V124a テラヘルツ強度干渉計のための1.5 THz光子計数型検出器の設計 丹羽綾子(筑波大学)	13:00	V134a Update on ALMA Operations and Development Program – Spring 2022 Alvaro Gonzalez (NAOJ)
09:42	V125a 光子計数型テラヘルツ強度干渉計のための極低温読み出し回路の開発 小関知宏(筑波大学)	13:12	V135a Measurement of Transmission Loss of a Superconducting Transmission Line with On-chip Resonators at 2mm Wavelength Wenlei Shan (NAOJ)
09:54	V126a CMB 偏光観測衛星LiteBIRD計画の開発と進展 松田フレドリック(宇宙航空研究開発機構)	13:24	V136a 集中定数素子を用いた4-12GHz帯90度ハイブリッドカプラの設計 増井翔(大阪府立大学/国立天文台)
10:06	V127a LiteBIRD 低周波望遠鏡スケールモデルの広視野偏光角測定の高精度化 高倉隼人(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	13:36	V137a 広帯域平面統合型 SIS 受信機のLO系開発に向けたテストモジュールの設計 増倉明寛(名古屋大学/国立天文台)
10:18	V128a Development of a design optimization method for hybrid-type MKIDs Hiroki Kutsuma (RIKEN)	13:48	V138a The Next Generation Very Large Array – Spring 2022 伊王野大介(国立天文台)
10:30	V129a Simons Array 望遠鏡の検出器の偏光特性評価のための狭帯域 RF 発振器を用いた光学試験装置の開発 廣瀬開陽(横浜国立大学)	14:00	V139b 野辺山45m/ASTE 観測データアーカイブと野辺山パイプラインの開発・公開 吉野彰(国立天文台)
10:42	V130a 野辺山45 m 電波望遠鏡搭載用100-GHz帯109素子電波カメラの開発: 実験室における雑音評価 村山洋佑(筑波大学)	14:12	質疑応答(10分)
10:54	V131a Al-NbTiN ハイブリッド型 MKID アレイを用いた100-GHz帯連続波カメラの野辺山45 m 電波望遠鏡搭載試験 宮澤啓(筑波大学)		
11:06	V132a 144素子 LeKIDアレイを用いた野辺山45 m 鏡用ミリ波カメラの光学性能評価 野地涼平(筑波大学)		
11:18	V133a カ学インダクタンス検出器アレイの多素子同時読み出しにおける雑音低減に関する研究 青木美和(筑波大学)		
11:30	質疑応答(10分)		

## V2. 観測機器 (光赤外・重力波・その他)

3月3日(木) 午後・F会場		3月4日(金) 午前・F会場	
13:00	V201a TMT 計画 – 進捗報告 臼田知史(国立天文台)	09:30	V214a SuMIRe-PFS[29]: プロジェクト概要と 装置開発進捗状況まとめ 2022 年春季 田村直之(東京大学カブリ数物連携宇宙 研究機構)
13:12	V202a 東京大学アタカマ天文台TAO 6.5m 望遠鏡 計画 進捗報告 宮田隆志(東京大学)	09:42	V215a SuMIRe-PFS[30]: 初回望遠鏡搭載試験・ 試験観測の報告 森谷友由希(国立天文台)
13:24	V203a 近赤外線面分光ユニット SWIMS-IFU の 組み上げと実験室での性能評価 榎引洸佑(東京大学)	09:54	V216a SuMIRe-PFS[31]: Development of the PFS target database and the connection to the fiber allocation process 小野寺仁人(国立天文台)
13:36	V204a 共同利用観測を開始した可視 3 色高速 撮像分光装置 TriCCS 松林和也(京都大学)	10:06	V217a 恒星フレア自動観測のための中央大学 40cm 可視光望遠鏡 甲原潤也(中央大学)
13:48	V205a 可視 3 色同時広視野カメラの性能評価 橋ヶ谷武志(京都大学)	10:18	V218a 全天赤外線雲モニタの開発 津々木里咲(東京大学)
14:00	V206a せいめい望遠鏡に搭載する系外惑星探 索専用高分散分光器 GAOES-RV 佐藤文衛(東京工業大学)	10:30	V219a 仮想敵対的学習による Tomo-e Gozen サーベイにおけるReal/Bogus分類の改善 高橋一郎(東北大学)
14:12	V207a 連星系における系外惑星探査のための ダークホール技術の開発 2 米田謙太(北海道大学)	10:42	V220a ロバスト主成分分析に基づく劣化 CCD カメラ画像のノイズ除去 江良真結子(東京工業大学)
14:24	V208a 可視シングルモードファイバー高分散分 光器に向けた高効率ファイバー入射光 学系の開発 多田将太郎(総合研究大学院大学)	10:54	V221a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の現状 伊藤洋介(大阪市立大学)
14:36	V209a レーザーガイド星波面センサーにおける ローリングシャッター読み出しの影響 大金原(東北大学)	11:06	V222a 突発天体探査衛星うみつばめ搭載の紫 外線望遠鏡の熱設計 原拓輝(東京工業大学)
14:48	V210a 単光子計数法による高速可視撮像シス テムの開発と改良 中森健之(山形大学)	11:18	V223a CMOS イメージングセンサにおける発光 現象の解明 尾形舜(東京工業大学)
15:00	V211b 引き摺り 3 点計測法による 1.8m 軸外し 望遠鏡 PLANETS 主鏡の形状計測 鍵谷将人(東北大学)	11:30	V224b SuMIRe-PFS[32]: Selection of spectrophotometric and chemical abundance calibration stars for the PFS observations 石垣美歩(国立天文台)
15:00	V212b 近赤外撮像装置 TOPICS の検出器駆動 と冷却システムの開発 永田和也(東北大学)	11:30	V225b ぐんま天文台 150cm 望遠鏡への三波長 同時撮像装置 MuSaSHI の搭載と観測 金井昂大(埼玉大学)
15:00	V213b 能動支持機構などによる 1.8m 軸外し望 遠鏡 PLANETS 主鏡の最終研磨量削減 永田和也(東北大学)	11:42	質疑応答(10分)
15:12	質疑応答(10分)		

V3. 観測機器 (X線・ $\gamma$ 線)

3月4日(金) 午後・F会場		3月4日(金) 午前・B会場	
13:00	V226a 高感度太陽紫外線分光観測衛星 Solar-C(EUVST)の最新状況 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)	09:30	V301a 超小型衛星による、宇宙空間からの太陽中性子の観測(V) 山岡和貴(名古屋大学)
13:12	V227a Solar-C(EUVST)衛星:観測装置 EUVST設計検討の進捗報告 原弘久(国立天文台)	09:42	V302a 超小型X線衛星NinjaSatに搭載するガスX線検出器の開発(3) 林昇輝(東京理科大学/理化学研究所)
13:24	V228a LOPYUTA(Life-environmentology, Astronomy, and Planetary Ultraviolet Telescope Assembly)計画の検討状況 土屋史紀(東北大学)	09:54	V303a 超小型X線衛星NinjaSatに搭載するガス検出器用の電子回路基板の開発 大田尚享(東京理科大学/理化学研究所)
13:36	V229a JASMINE計画の全体的概要と進捗 郷田直輝(国立天文台)	10:06	V304a 超小型X線衛星NinjaSatに搭載する放射線帯モニターの開発 加藤陽(理化学研究所)
13:48	V230a 国産InGaAs近赤外イメージセンサーの宇宙用化に向けた陽子線照射試験 鹿野良平(国立天文台)	10:18	V305a CMOSイメージセンサを用いた硬X線撮像偏光計の開発V 小高裕和(東京大学)
14:00	V231a JASMINE望遠鏡光学系:3枚鏡と2枚鏡のトレードオフ検討 鹿島伸悟(国立天文台)	10:30	V306a CMOSイメージセンサIU233N5-ZのX線性能評価と偏光検出の可能性 榎木大修(広島大学)
14:12	V232a JASMINEの検出器変更可能性と、観測データの再検討 矢野太平(国立天文台)	10:42	V307a 機械学習を用いたX線判別法 盛顯捷(青山学院大学)
14:24	V233a JASMINE end-to-endシミュレーション計画の進捗 大澤亮(東京大学)	10:54	V308a グラフェン超薄膜を用いた高機能汎用型光学素子の開発(3) 三石郁之(名古屋大学)
14:36	V234a CIB観測ロケット実験CIBER-2:観測データ解析の現状と今後の開発課題 松浦周二(関西学院大学)	11:06	V309b 湾曲Si結晶を用いたブラッグ反射型偏光計の分光性能評価(2) 井上諒大(中央大学)
14:48	V235a 接合型Ge検出器の平面展開構造による未開拓な赤外線波長帯の高感度化 鈴木仁研(宇宙航空研究開発機構)	11:06	V310b X線反射率向上を目指した原子層堆積法による軽元素膜付け 石川久美(東京都立大学)
15:00	V236a 次期ひまわり搭載用静止軌道高エネルギー陽子線計測装置開発 大辻賢一(情報通信研究機構)	11:18	質疑応答(10分)
15:12	質疑応答(10分)		

3月4日(金) 午後・B会場		3月5日(土) 午前・B会場	
13:00	V311a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画: 全体報告 (21) 山本常夏 (甲南大学)	09:30	V321a X線分光撮像衛星 XRISM 搭載 X線望 遠鏡 (XMA) 開発の現状 (6) 林多佳由 (NASA's GSFC, UMBC)
13:12	V312a CTA 大口径望遠鏡 2-4 号機カメラ製作 の現状 岩崎啓 (京都大学)	09:42	V322a X線分光撮像衛星 (XRISM) 搭載軟 X 線撮像装置 (Xtend) の開発の現状 (7) 萩野浩一 (東京理科大学)
13:24	V313a CTA 大口径望遠鏡の高画素化に向けた SiPM モジュールの開発 齋藤隆之 (東京大学)	09:54	V323a X線分光撮像衛星 XRISM 搭載 Resolve の開発の現状 VIII 石崎欣尚 (東京都立大学)
13:36	V314a 硬X線偏光検出気球実験 XL-Calibur 用 X線望遠鏡の開発 (3) 鴨川航 (大阪大学)	10:06	V324a XRISM 衛星搭載極低温検出器における 機械式冷凍機による微小擾乱の影響評価 今村竜太 (愛媛大学)
13:48	V315a 硬X線偏光検出気球実験 XL-Calibur の 現状と噛み合わせ試験の報告 峯田大靖 (大阪大学)	10:18	V325a XRISM 搭載 Resolve のエネルギー値較 正用 $^{55}\text{Mn}$ 線源の絶対強度測定 松本岳人 (東京都立大学)
14:00	V316a GRAMS 計画 4: MeV ガンマ線観測・ ダークマター探索気球実験 米田浩基 (理化学研究所)	10:30	V326a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用 準備の現状 林克洋 (宇宙航空研究開発機構)
14:12	V317a 日米共同・太陽フレアX線集光撮像分光 観測ロケット実験 FOXSI-4 成影典之 (国立天文台)	10:42	V327a X線分光撮像衛星 XRISM の観測データ 処理とその準備状況 高橋弘充 (広島大学)
14:24	V318a 太陽観測ロケット実験 FOXSI-4に向けた ワイドギャップ CdTe ストリップ検出器の 開発と性能評価 II 長澤俊作 (東京大学 Kavli IPMU)	10:54	V328a X線分光撮像衛星 XRISM 時刻システム の地上評価検証 寺田幸功 (埼玉大学)
14:36	V319a 電鍍技術を用いた飛翔体搭載用高角度 分解能多重薄板型X線望遠鏡の開発 (6) 作田皓基 (名古屋大学)	11:06	V329a ダークバリオン探索ミッション Super DIOS の開発へ向けた検討 IX 佐藤浩介 (埼玉大学)
14:48	V320a X線偏光観測衛星 IXPE の現状 (1) 玉川徹 (理化学研究所)	11:18	V330a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮 像分光する衛星計画 FORCE の現状 (13) 森浩二 (宮崎大学)
15:00	質疑応答 (10分)	11:30	質疑応答 (10分)

## W. コンパクト天体

## W. コンパクト天体

3月2日(水) 午前・A会場		11:30	W13b	降着円盤最外縁の降着リングの特性とそこからの2層降着流と2層排出流 井上一(宇宙航空研究開発機構)
09:30	W01a			
				W14c
09:42	W02a			
		11:42		質疑応答(10分)
09:54	W03a	3月2日(水) 午後・A会場		
		13:00	W15a	多重極磁場を伴った中性子星の磁場埋め込みと磁気山の構造 藤澤幸太郎(東京大学)
10:06	W04a	13:12	W16a	中性子星の表層クラストの弾性力で支えられた磁場 小島康史(広島大学)
		13:24	W17a	X線観測から探るマグネターのトロイダル磁場の長期変化 牧島一夫(東京大学)
10:18	W05a	13:36	W18a	SwiftとすざくによるMAXI J1421-613のダスト散乱エコーの観測 信川久実子(近畿大学)
		13:48	W19a	X線バースト天体1RXS J180408.9-342058による中性子星の状態方程式の制限 土肥明(九州大学/理化学研究所)
10:30	W06a	14:00	W20a	「すざく」による低質量X線連星の光電離プラズマの解析 中間洋子(東京工業大学)
		14:12	W21a	準再帰型ニューラルネットワークを用いたX線強度変動解析の高速化 牧田佳大(立教大学)
10:42	W07a	14:24	W22a	MAXI/GSCが検出した2021年度後半の突発現象 根来均(日本大学)
		14:36	W23a	V455 Andの分光観測:円盤風が矮新星アウトバーストに付随する可能性 反保雄介(京都大学)
10:54	W08a	14:48	W24a	矮新星V1504 Cygにおける、連星の公転軌道面から傾いた降着円盤による可視光変動の解析 関亮輔(芝浦工業大学)
11:06	W09a			
11:18	W10a			
11:30	W11b			
11:30	W12b			

15:00	W25a	特異な superhump excess を持つ矮新星 LL Andromedae の進化経路 伊藤潤平 (京都大学)	10:54	W36a	ジェット伝搬シミュレーションによるガンマ線バーストが付随する超新星の高速エジェクタ成分の研究 鈴木昭宏 (国立天文台)
15:12	W26b	回転しながら中心天体から放出される流体の自己相似解と連星合体時の放出物質への応用 黄天鋭 (東京大学)	11:06	W37a	ガンマ線バーストの即時放射休止中の放射の起源 李晋 (青山学院大学)
15:12	W27b	パルサー Polar Cap からの非熱的 X 線放射の起源 柴田晋平 (山形大学)	11:18	W38a	電子分布非等方性とガンマ線バーストの即時放射 後藤瞭太 (東京大学)
15:12	W28b	高速イメージフィットと機械学習を取り入れた MAXI アラートシステムの改良 朝倉敬介 (日本大学)	11:30		質疑応答 (10 分)
15:24		質疑応答 (10 分)	3 月 3 日 (木) 午後・A 会場		
3 月 3 日 (木) 午前・A 会場			13:00	W39a	ショートガンマ線バーストで探る中性子星合体からの放出物質の性質 野際洸希 (東北大学)
09:30	W29a	Be 型ドナーを持つ大質量 X 線連星系の進化段階としての ULX 鷹野重之 (九州産業大学)	13:12	W40a	連星中性子星合体における質量放出・元素組成の連星質量比依存性 藤林翔 (Max Planck Institute for Gravitational Physics)
09:42	W30a	MAXI と TESS で見る X 線連星の可視光と X 線の変動の相関 細川稜平 (東京工業大学)	13:24	W41a	Very-high-energy gamma-rays from binary neutron star mergers 林浩翔 (東京大学)
09:54	W31a	大質量 X 線連星 : IGR J00370+6122 における中性子星への降着幾何と磁場強度の推定 内田和海 (宇宙航空研究開発機構)	13:36	W42a	連星中性子星 川口恭平 (東京大学)
10:06	W32a	那須電波干渉計によって観測された Cygnus X-3 の巨大フレア (3) 坪野公夫 ((一社)電波天文学研究会)	13:48	W43a	放射輸送磁気流体数値相対論シミュレーションによるブラックホール・中性子星連星合体の長時間発展 林航大 (京都大学)
10:18	W33a	相対論的無衝突衝撃波での乱流ダイナモによる磁場増幅 富田沙羅 (東北大学)	14:00	W44a	重力波観測を用いた Population III の初期質量観測への制限 聖川昂太郎 (東京大学)
10:30	W34a	ガンマ線バースト残光の偏光から探る相対論的衝撃波の磁場構造 桑田明日香 (東北大学)	14:12	W45a	スカラーテンソル理論における球対称重力崩壊に対するコード作成 浅川直道 (東邦大学)
10:42	W35a	Monte Carlo simulations of fast Newtonian and mildly relativistic shock breakout from a stellar wind 伊藤裕貴 (理化学研究所)	14:24	W46a	一般相対論的の光行差方程式を用いた Kerr 時空における光の曲がりについて 荒木田英禎 (日本大学)
			14:36		質疑応答 (10 分)

## X. 銀河形成・進化

3月2日(水) 午前・G会場		3月2日(水) 午後・G会場	
09:30	X01a 小スケール天体現象の理解に基づく初代銀河形成シミュレーション 杉村和幸(東北大学)	13:00	X12a A clear picture of dust-obscured star-formation in the Early Universe Tom Johannes Lucinde Cyrillus Bakx (Nagoya University)
09:42	X02a 形成初期銀河での化学組成比進化 福島啓太(大阪大学)	13:12	X13a すばる望遠鏡/Hyper Suprime-Camによる $z \sim 6.8$ Ly $\alpha$ 輝線銀河の探査 室伏海南江(東京大学)
09:54	X03a 宇宙再電離期における原始銀河団領域の21cm線シグナル 秋葉健志(筑波大学)	13:24	X14a すばる望遠鏡 Hyper Suprime-Camが捉えた最遠方低光度クエーサー周辺の電離領域と宇宙再電離 大栗鷹也(愛媛大学)
10:06	X04a ALMAによる $z = 8.31$ のライマンブレイク銀河の300 pc分解能撮像 田村陽一(名古屋大学)	13:36	X15a 遠方クエーサー形成に向けた近赤外線変光調査 関根章太(早稲田大学)
10:18	X05a A study of the [O III] 88 $\mu$ m and [C II] 158 $\mu$ m emission in a $z = 7.2$ galaxy Yi Ren (Waseda University)	13:48	X16a Uchuu simulationと準解析的モデルで探るAGN光度関数のfield variance 大木平(千葉大学)
10:30	X06a ALMA reveals extended cool gas and hot ionized outflows in a typical star-forming galaxy at $z = 7.13$ 藤本征史 (Cosmic Dawn Center, Niels Bohr Institute)	14:00	X17a 近傍から $z > 6$ の銀河を繋ぐ可視・遠赤外の輝線図モデリング 菅原悠馬(国立天文台/早稲田大学)
10:42	X07a 赤方偏移7から4における[CII]158 $\mu$ m輝線で見た星形成銀河の形態と進化 札本佳伸(早稲田大学/国立天文台)	14:12	X18a $0 < z < 5$ における銀河のcomposite SEDsから探る星形成史 杉森加奈子(総合研究大学院大学)
10:54	X08a スパースモデリングによる $z = 7$ のLyman break 銀河 A1689-zD1のALMA超解像イメージング 今村千博(名古屋大学)	14:24	X19a X線・電波スタッキング解析から探る星形成が静かな大質量銀河の $0 < z < 5$ におけるAGN活動 伊藤慧(総合研究大学院大学/国立天文台)
11:06	X09a Deep CO Observations for Luminous Lyman-break Galaxies at $z = 6.0293-6.2037$ 小野宜昭(東京大学)	14:36	X20b 宇宙最初のcold accretionの発現 喜友名正樹(京都大学)
11:18	X10a ALMA observations of a submillimeter galaxy at $z = 6$ I: Detection of nitrogen 但木謙一(国立天文台)	14:36	X21b SDSS Stripe82時系列カタログを用いたクエーサーの光度変動と進化の関係 古澤順子(国立天文台)
11:30	X11a ALMA observations of a submillimeter galaxy at $z = 6$ II: Lens modeling, gas kinematics and CO excitation Akiyoshi Tsujita (The University of Tokyo)	14:36	X22b 深層学習を用いた銀河の形態分類 中小路佑介(芝浦工業大学)
11:42	質疑応答(10分)	14:48	X23b 化学進化を考慮したSEDモデルの遠方銀河への適用 河本慧理奈(名古屋大学)

14:48	X24b	Star formation of major mergers 藤谷愛美 (名古屋大学)	3月3日 (木) 午前・G会場
14:48	X25b	Galactic formation and chemical evolution of dwarf galaxies in local groups explored by mass-metallicity relations 松井瀬奈 (名古屋大学)	09:30 X29a ALMA の [CII] ガス力学によって明らかになった爆発的星形成銀河 BRI1335-0417 の内部構造 津久井崇史 (総合研究大学院大学)
15:00	X26b	銀河衝突によるアンドロメダ銀河の力学進化 堀田彩水 (筑波大学)	09:42 X30a The general presence of a Ly $\alpha$ halo around high-z galaxies and its high incidence rate 日下部晴香 (University of Geneva)
15:00	X27b	銀河系衛星銀河の潮汐破壊による質量損失と近点距離の関係 田中駿次 (筑波大学)	09:54 X31a Widely distributed cold gas and dust within a $z=3$ giant Lyman- $\alpha$ blob Hideki Umehata (The University of Tokyo)
	X28c	分子雲の進化論 前岡光明	10:06 X32a Ionized gas outflows from an AGN in a massive quiescent galaxy in a protocluster at $z = 3.09$ 久保真理子 (愛媛大学)
15:12		質疑応答 (10分)	10:18 X33a Morphological Analysis of Nine Submillimeter Galaxies Shuo Huang (The University of Tokyo)
			10:30 X34a COSMOS 領域における $z=0.7-0.9$ の銀河の星形成活動の急激な変化の起源 樋本一晴 (愛媛大学)
			10:42 X35a Test for a Quenching Mechanism of Cosmic Web Detachment 井上真 (京都大学)
			10:54 X36a Analysis of the spatially resolved SFR - stellar mass relation for DustPedia galaxies Wen E. SHI (Nagoya University)
			11:06 X37a 色等級図を用いた星形成史復元における、金属量の仮定の違いによる系統的誤差の推定 森林太郎 (法政大学)
			11:18 X38a Reconstructing Galaxy Star Formation History with Present-day Galaxy Manifold Suchetha Cooray (Nagoya University)
			11:30 質疑応答 (10分)

## X. 銀河形成

3月3日(木) 午後・G会場		3月4日(金) 午前・G会場	
13:00	X39a Effect of heat conduction onto cold streams accretion inside circum-galactic-medium of massive high redshift galaxies Nicolas Ledos (Osaka University)	09:30	X51a 深層学習を用いた輝線強度マッピング観測データからの三次元銀河分布の再構築 森脇可奈(東京大学)
13:12	X40a 赤方偏移5の原始銀河団における星形成活動 利川潤(University of Bath)	09:42	X52a Passive spiral galaxies deeply captured by Subaru/HSC 嶋川里澄(国立天文台)
13:24	X41a HSC+CFHTサーベイデータで探る $z \sim 3$ でのクエーサー周辺の銀河環境 鈴木悠太(愛媛大学)	09:54	X53a スーパーボイドにおける銀河形成 井上開輝(近畿大学)
13:36	X42a 深狭帯域撮像観測で探る $z \sim 2$ における小質量銀河の星形成活動 大工原一貴(東北大学)	10:06	X54a PHANGS-ALMA アーカイブデータを用いた近傍銀河のCO(2-1)分子ガス分布の定量的・統計的解析 山本卓(放送大学)
13:48	X43a ALMA high-resolution study of CO(2-1) line and dust continuum emissions from cluster galaxies at $z = 1.46$ 池田遼太(総合研究大学院大学/国立天文台)	10:18	X55a Outflows of Low-Mass Galaxies with $M_* = 10^4 - 10^7 M_\odot$ Yi Xu (The University of Tokyo)
14:00	X44a A Wide and Deep Exploration of Radio Galaxies with Subaru HSC (WERGS): $z = 0.3-1.4$ の電波銀河周辺環境の統計的理解 内山久和(愛媛大学)	10:30	X56a 銀河系矮小銀河の化学動力学進化と星形成史 林航平(一関工業高等専門学校)
14:12	X45a The ISM properties and evidence of AGN in extreme emission-line galaxies at $z \sim 0.8$ 柏野大地(名古屋大学)	10:42	X57a ダークマターサブハローの力学進化過程 数野優大(筑波大学)
14:24	X46a The Most Extreme Line Emitters at $z \sim 0.8$ 播金優一(東京大学)	10:54	X58a ダークマターサブハローの力学進化と近傍銀河・銀河団観測との比較 金田優香(筑波大学)
14:36	X47a 周辺環境から探る極金属欠乏銀河の形成メカニズム 西垣萌香(総合研究大学院大学)	11:06	X59a 銀河衝突とガスの熱力学進化 大滝恒輝(筑波大学)
14:48	X48a IllustrisTNG における極金属欠乏銀河の存在環境と形成メカニズム 井上茂樹(北海道大学)	11:18	X60a 高分解能シミュレーションに基づいた超新星フィードバックモデルの構築 奥裕理(大阪大学)
15:00	X49a 極低金属量範囲における金属量指標 中島王彦(国立天文台)	11:30	X61a 銀河形成シミュレーション高解像度化に向けた深層学習・CVによる超新星爆発のシェル膨張予測 平島敬也(東京大学)
15:12	X50a 形成初期銀河における分散運動の優位性が示す超新星爆発や銀河合体の兆候 磯部優樹(東京大学)	11:42	質疑応答(10分)
15:24	質疑応答(10分)		

## Y. 天文教育・広報普及・その他

3月3日(木) 午前・H会場		3月3日(木) 午後・H会場	
09:30	Y01a 高等学校で総合的・基礎的な必修理科科目は必要か？ 縣秀彦(国立天文台)	13:00	Y09a オンライン講演会の参加者層と事後アンケート分析 生田ちさと(宇宙航空研究開発機構/総合研究大学院大学)
09:42	Y02a 高校生向け天文学実習「銀河学校2021」オンライン実施報告 大島由佳(東京大学)	13:12	Y10a 東北に飛来した球状浮遊物体騒動で再認識した天文教育・広報普及活動の重要性 服部誠(東北大学)
09:54	Y03a 東京学芸大学の新40cm鏡を活用した教育研究活動 土橋一仁(東京学芸大学)	13:24	Y11a 「市民科学」で読み解く諏訪天文同好会の100年 大西浩次(長野工業高等専門学校)
10:06	Y04a 東京学芸大学の新40cm鏡と制御システムの開発4 富田飛翔(東京学芸大学)	13:36	Y12a デジタル一眼レフカメラを用いた夜空の明るさ観測システムの長期運用 小野間史樹(星空公園)
10:18	Y05a 分光観測を直感的に理解するための中小望遠鏡向け接眼分光器の開発 橋本修(ぐんま天文台)	13:48	Y13a すばる望遠鏡に設置されたライブカメラによる星空配信:経緯及び教育研究素材としての可能性 田中壺(国立天文台)
10:30	Y06a 岡山クーデ分光乾板デジタルアーカイブの予備調査 柳澤顕史(国立天文台)	14:00	Y14a 長浜城歴史博物館の国友一貫斎作天体望遠鏡の光学特性調査 萩野正興(国立天文台/日本スペースガード協会)
10:42	Y07b 中高生に向けた宇宙線探究活動「探Q」の現況報告 榎本晴日(東京工業大学)	14:12	Y15a 近代初期の学術書による地球惑星科学用語の翻訳語の混在 玉澤春史(京都大学/京都市立芸術大学)
10:42	Y08b 教育用簡易電波干渉計プロトコル「j-VLBI」構想 木村正樹(株式会社リバネス)	14:24	Y16a 緯度観測所第3代所長・池田徹郎が提案した新しい女性所員の働き方 馬場幸栄(一橋大学)
10:54	質疑応答(10分)	14:36	Y17b 「長野県は宇宙県」全市町村で天の川が見られる県～長野県内の系統的な夜空の明るさ測定～ 衣笠健三(国立天文台)
		14:36	Y18b すばる望遠鏡に設置されたライブカメラによる星空配信:2.さいだん座新流星群の出現確認 田中壺(国立天文台)
		14:48	質疑応答(10分)

2022年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	古澤久徳	(国立天文台)	
委員	和泉 究	(宇宙航空研究開発機構)	
	岩切 渉	(中央大学)	
	大宮 正士	(アストロバイオロジーセンター)	
	大屋 瑤子	(東京大学)	
	鈴木 知治	(中部大学)	
	廿日出 文洋	(東京大学)	
	堀田 英之	(千葉大学)	
	松岡 良樹	(愛媛大学)	
	浅井 歩	(京都大学)	保育室担当
	市来 淨與	(名古屋大学)	保育室担当

年会開催地理事

深沢泰司 (広島大学)